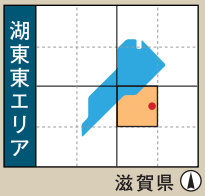
史跡

県指定

湖東地域の群集墳（上蚊野古墳群・平柳古墳群）

秦荘町上蚊野・湖東町平柳　平成13年3月19日指定



湖東平野を流れる宇曽川が造り出した扇状地上には、数多くの後期古墳が造営され、県下最大の群集墳となっていました。これらの古墳を築いたのは、近江に生活の地を求めた渡来人達でした。かつて多数あった古墳も開墾により失われ、残された秦荘町の上蚊野古墳群と、湖東町の平柳古墳群が史跡に指定されています。

当時のできごと	
513年	百済が五経博士を献上
562年	新羅、任那を滅ぼす
600年	倭王、任那を助けて新羅と戦う



上蚊野古墳群



上蚊野古墳群



階段状石室

古墳群の立地

古代の近江には、多数の渡来人達が移り住み、その先進的な技術により農地を拡大し、優れた文化を生み出していました。これらの渡来人達が築造したとされる古墳群の一つが、上蚊野古墳群と、平柳古墳群です。宇曽川の右岸に築かれた古墳群で、かつて、県下最大規模の古墳群であった、金剛寺野古墳群の一画にあたります。平柳古墳群は、宇曽川の左岸に立地し、両者とも、在地の古墳と異なる独特の石室構造となっています。

上蚊野古墳群

上蚊野古墳群は、かつて102基から構成される古墳群でしたが、開墾などによりその姿を消し、現在残されているのは十数基にしかすぎません。このうち10基が古墳公園として整備され、3基が公園に隣接する八幡神社の境内に残っています。これらの古墳のうち百塚古墳、こうもり塚古墳、たぬき塚古墳の3基の古墳の発掘調査が行われています。このうち、たぬき塚古墳からは、階段状石室（羨道と玄室間に段差のある構造）が確認されています。この石室構造は、湖東地域の渡来人の古墳によく見られる構造であることから、この古墳群の築造には渡来人達が関与したと考えられます。古墳群の造営された年代は、古墳から出土した土器から、6世紀後半頃と考えられています。

平柳古墳群

本来、17基の古墳から構成される古墳群でしたが、現在は天満神社の境内に十数基が確認されるのみです。墳丘の残存状況の良い古墳が多く、古墳の築造時の状況を見ることができる他、大小の古墳が近接して存在し、群集墳の典型的な構成を示しています。

近江の渡来人

愛知郡の「エチ」、秦荘町の「ハタ」は、いずれも渡来系の氏族「依智秦（えちはた）氏」に由来する地名です。この地域は、弥生時代から古墳時代中期までの遺跡が少ないのに対し、古墳時代後期以降に遺跡数が増大する傾向があります。日本書紀には、湖東に多数の渡来人達が移住したことが記されています。遺跡数の増大は、渡来人達の優れた技術により、この地域の開発が、急速に進んだことを物語っています。ここで紹介をした古墳群の造営に、これら渡来人達が深く関与したことは、容易に想像できます。



平柳古墳群A-1号墳



平柳古墳群A-3号墳

関連する文化財

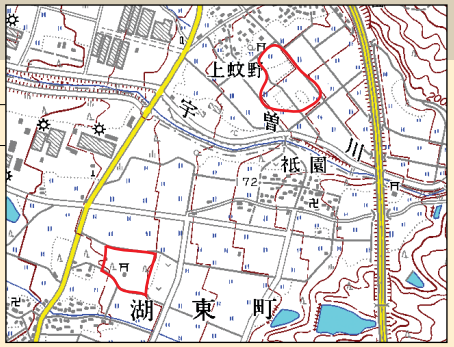
勝堂古墳群（湖東町）	学習シートNo.057
軽野塔ノ塚廃寺（秦荘町）	古墳群に近接してある白鳳期から平安時代までの寺院跡。渡来人の関与が考えられる
大津北郊古墳群（大津市）	持ち送り式の石室構造を持つ後期古墳群。渡来人系の人達の古墳とされている
穴太遺跡（大津市）	渡来人系の人達が住んでいた古代集落跡。切妻大壁式建物など独特の遺構が見つかっている

もっと深く知りたい

秦荘町歴史文化資料館　☎0749−37−4500　愛知郡秦荘町松尾寺878

安土城考古博物館　☎0748−46−2424　蒲生郡安土町下豊浦6678

湖東地域の群集墳へのアクセス　名神高速道路　八日市インター



【参考文献】〔滋賀県埋蔵文化財調査年報〕滋賀県教育委員会

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　平成16年3月